

# 研究科卒業生2氏が講演

先端膜  
研究機構  
製品開発や戦略など体験談



数野氏



疋田氏

国内唯一の膜工学研究拠点で、神戸大学の一般

社団法人である先端膜工学研究推進機構はこのほど、第11回MBTA（メンブレン・ビジネス&テクノロジ・アカデミー）を同大学で新設されたオープン・イノベーション施設とオンラインで開催した。今回のテーマは「科学技術イノベ

ーション研究科卒業生の活躍」で、同科博士課程後期課程第1期生の2人の講演や質疑応答・討論が行われ、関係者ら合計約60人が聴講した。

冒頭、松山秀人・同機構長（神戸大学先端膜工学センター長）は「研究科で学んだ知識などを実践し、第1期生が所属企業において、先端膜やバ

イオ技術などの分野で活躍しているのは嬉しい限り。今後の業務の参考に」とあいさつ。

北河享・同科特命教授は、MBTAについて開発膜の社会実装を想定し、ビジネスの考え方と膜技術発展の方向性などについて、2022年度から議論しており、RO膜開発秘話などをテーマ

にしてきたと紹介した。続いて、数野洋平・クラレ倉敷事業所アクア開発部商品開発グループリーダーが「膜分離技術とイ

ノベーションと創造性」と題して講演。高透水性と高濁度対応を追究した

水処理膜の製品化で得た感じたと説明。「世界の水処理市場は今後も伸びる見通しで、新しい膜への期待も高く、新しい課題に新しい材質・技術で解決していく姿勢を」などとまとめた。

モデレーターを蔭山広明・同科教授、パネリストを講演者2人が務めた。質疑応答・討論では、「ある程度の技術特化も必要」「研究では多数の技術の組み合わせの発想が重要」などの意見が出された。